

子どものかわいさは見た目だけではない —その子の性格についての情報に影響される—

概要

高松 礼奈 教育学研究科助教、楠見 孝 同教授、入戸野 宏 大阪大学大学院人間科学研究科教授は、子どもの性格についての情報は、子どもに対するかわいい評価、印象、養護欲求に影響することを明らかにしました。

研究成果のポイント

- ・ 幼児を対象とし、外見以外の特性（性格に関する情報）が、見た目のかわいさ、印象（人懐っこさ、賢さ）、養護欲求（お世話したい）に影響することを実証しました。
- ・ 好ましい性格で良い子と思われると、かわいい評価が上がり、養護欲求（お世話したい）も上がりました。
- ・ 嫌われる性格で悪い子と思われると、かわいい評価が下がり、養護欲求も下がりました。
- ・ 好ましくない性格情報の負の効果は、外見のかわいさに関係なく、1週間後も持続してみられました。

本研究成果は、米国東部時間 2023 年 1 月 18 日、「PLOS ONE」オンライン版に掲載されました。



1. 背景

ベビースキーマ効果によると、赤ちゃんや子どもの幼い外見は、大人にかわいいと感情を抱かせ、養護欲求（お世話したい）を高めることで育児行動を促進します。しかし、ベビースキーマ効果が最も強いはずの3歳以下の乳幼児が、被虐待児としてどの文化や社会でも犠牲になっています。なぜ、「かわいい」はずの子どもたちが、養護の対象外となるのか。この謎を解明するために、ベビースキーマ効果モデルでは考慮されていない外見以外の要因、性格に関する情報が関わっているのか、一連の実験を行いました。

2. 研究手法・成果

本研究グループは、子どもの性格に関する情報を操作し、かわいい評価や養護欲求などへの影響を検証しました。実験は、20～40代の女性72名（実験1；子どもあり：31.9%）、108名（実験2a, 2b；子どもあり：42.8%）を対象にオンライン上で行いました。まずは、子どもの顔写真を呈示し、かわいさ、印象について評価してもらいました（プレ評価）。そのあと、子どもの顔と性格情報（ポジティブ・ネガティブ・情報なし）を対で呈示して、子どもの顔に性格の情報を付随させました。性格の情報を操作後、再びかわいさ、印象について評価してもらいました（ポスト評価）（図1）。

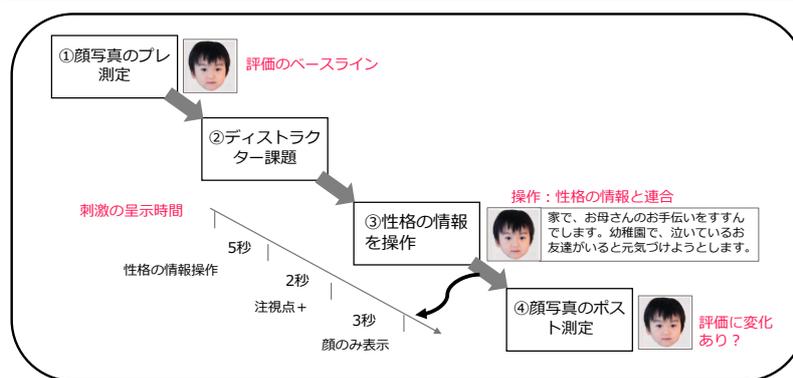


図1. 実験手続き（実験1：ポジティブな性格の情報を連合した条件）

その結果、かわいい評価と印象得点（たとえば、人懐っこい、賢い）は、外見は同じであっても好ましい性格を持った子どもに対して高くなり、好ましくない性格を持った子どもに対して低くなりました（図2）。さらに、好ましくない性格情報は、かわいい感情の低下を通して、お世話したい気持ちの低下を予測していました（図3）。

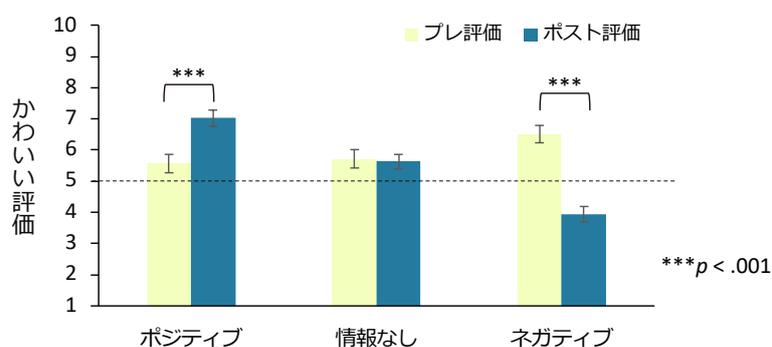
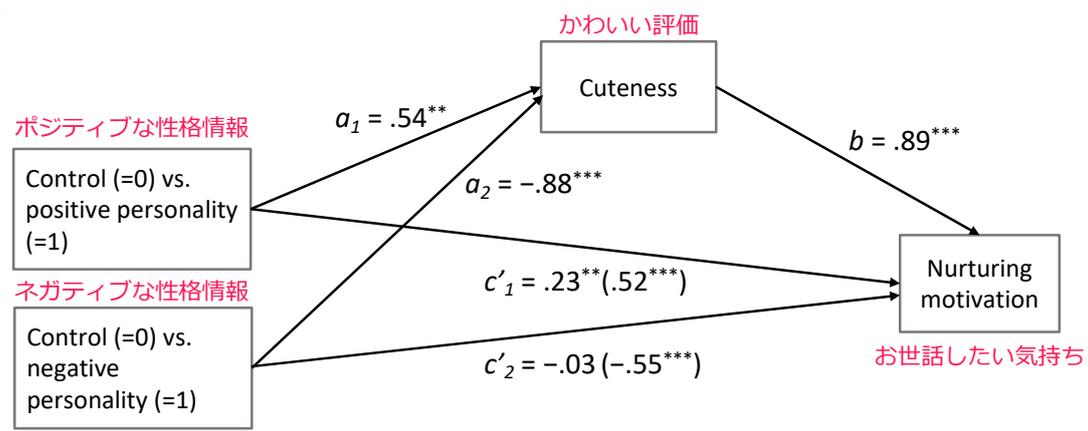


図2. 性格についての情報操作とかわいい評価について（実験1）



Note. $^*p < .01$, $^{**}p < .01$, $^{***}p < .001$. 子どもの有無を共分散に指定、数値は標準化係数を示す。

図3. お世話したい気持ちを従属変数、かわいい評価を媒介変数としたモデル (実験1)

実験 2a, 2b では、ももとの外見のかわいさによって 3 群に分け (ベースラインのかわいい評価低・中・高)、さらに性格に関する情報の効果に持続性があるか調べるために、1 週間後にも同じ項目について評価してもらいました。その結果、ポジティブな性格条件 (好かれる、良い子とされる内容) では、かわいさ、友好さ、賢さの評価が上がりました。反対に、ネガティブな性格条件 (嫌われる、悪い子とされる内容) では、3 指標の評価が下がりました。さらに、ネガティブな性格情報の効果は、ももとのかわいさに関係なく、1 週間後のかわいい評価に影響していました (図 4)。

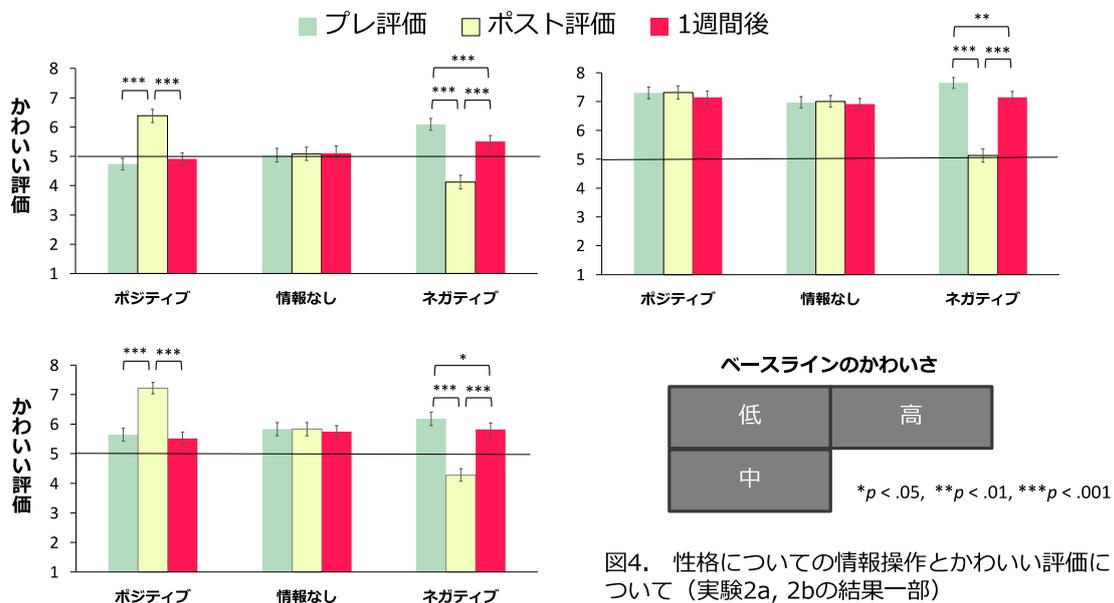


図4. 性格についての情報操作とかわいい評価について (実験2a, 2bの結果一部)

<研究者のコメント>

この研究は、「かわいさを見た目だけではない」という日常的な直感を実験によって裏づけた研究です。ニュースで児童虐待が報道されるたびに抱いた「なぜ」から着想に至りました。これまでの研究で、虐待リスクの高い養育者は、うつ状態と育児ストレスが高めで、子どもの言動を悪く捉えがちであることがわかっています。

今回の研究は、子どもに対してかわいと感じお世話したい気持ちについて、うつやストレスによって子どもの悪い面に注目してしまうと、持続的に低下してしまう可能性を示しています。逆に、その子どものよい面についての情報が入ってくれば（たとえば他の人と交流することで新しい見方が得られれば）、元の気持ちを回復させることができるかもしれません。育児や生活について悩んでいる養育者を一人にせず、多くの子どもたちが幸せな子ども時代を過ごせる世界の実現につながればと思っています。

<論文タイトルと著者>

タイトル：Personality descriptions influence perceived cuteness of children and nurturing motivation toward them

著者：Takamatsu, R. (高松 礼奈) , Kusumi, T. (楠見 孝) , Nittono, H. (入戸野 宏)

掲載誌：PLOS ONE DOI：10.1371/journal.pone.0279985